

故郷阿房列車（1987～2013）から MOMO でワイン電車 & ビアガー電へ（2008～）

■岡山が生んだ作家・内田百閒の「阿房列車」は RACDA の活動の原点でもある。日本初の鉄道オタクとも呼べる百閒は「用事の無い旅」で全国を駆け巡り、現代に通じる鉄道の旅の楽しみ方を顕わした。

■1987 年以来内田百閒顕彰会である「百鬼園倶楽部」では、展望車マイテ 492 などを使った「故郷阿房列車」を 24 回貸切運行。「東京岡山 16 時間 38 分、お急ぎの方



はのぞみ 3 時間 15 分をご利用ください」とのキャッチフレーズなど、食堂車が大好きな百閒に因んだご馳走を楽しみながら、時には貨物列車にも追い抜かれて喜ぶような、急ぎすぎる現代社会への痛烈な批判を内在しつつ、レトロ



ファッションコンテストに興じたりもした。

■内田百閒全作品を収録した旺文社文庫の廃刊後、福武書店（現ベネッセ）に文庫本の発行を依頼した。「贅沢の意味を知っている作家」とも言われる百閒、今やその阿房列車精神は、全国 100 以上のグルメ列車に反映されて、鉄道の旅の楽しみ方を広げている。

■鉄道から食堂車が無くなったと知ったら、百閒は悲しんだろう。そこで RACDA 主催の岡山駅前電停を発車する「ワイン電車」（独自）「ビアガー電」（熊本市交通局の商標登録有り）が始まった。新幹線の食堂車がなくなったから、それでは路面電車で食堂車をやろうという反骨精神だ。毎週金曜日の夜、水戸岡鋭治デザインの世界一おしゃれな内装で知られる MOMO 2 を使用して運行されている。MOMO のデザインのと看、水戸岡さんに『恋の生まれるようなデザインにしてください』と頼んでいた。また、ワイン電車の運行を想定してあちこちにグラスを置く台を作った。これも百閒の影響だ。市民団体が運行するのは、日本一短い路面電車軌道を延伸するための、市民啓発活動の一環として、路面電車を楽しんで貰うことを目指しているからだ。

■ワイン電車等は 2007 年から運行を開始し、半分は全車または半車の貸切に利用されている。（コロナ下では運休、2019 年までに 304 便、6465 人）ライブ演奏も入り、音楽も楽しめる。2011 年導

入の MOMO 2 では各座席に飲食用のテーブルが装備されており、「基本的には飲食禁止の路面電車」の常識を打ち破るものである。（熊本市交通局 COCORO も同様の内装）もちろん、通勤時、多客時には飲食しないというのがマナーなのだがちょっとおしゃれな MOMO に乗ってランチするのはありかも。



ビアガー電ワイン電車		
	回数	人数
2008	11	269
2009	12	243
2010	28	554
2011	32	623
2012	41	933
2013	39	799
2014	28	644
2015	24	473
2016	27	583
2017	26	570
2018	19	405
2019	17	369
合計	304	6465

